

事業報告書

2019年度

【2019年4月1日から2020年3月31日まで】

学校法人 常磐会学園

1. 法人の概要

- ① 名称 : 学校法人常磐会学園
② 住所等 : 大阪府大阪市平野区平野南4-6-7
電話番号 : 06-6709-3170
ファックス : 06-6709-2201
ホームページ : <http://www.tokiwakai.ac.jp/intro/group.html>

③設置する幼稚園名

- 幼稚園の名称 : 認定こども園 常磐会短期大学附属常磐会幼稚園
: 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学附属いずみがおか幼稚園
: 常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園

認定こども園を構成する施設	名称	認定こども園 常磐会短期大学附属 いずみがおか幼稚園	種別	学校法人 幼保連携型認定こども園
			認可等年月日	昭和47年4月1日
	所在地	堺市南区三原台3丁3番1号	種別等	認可等定員 240名 1号認定子ども 86名 2号認定子ども 94名 3号認定子ども 60名
			園長名(就任年月日)	高田 昌代(2019年4月1日)

- 電話番号 : 072-291-0393
ファックス : 072-291-4093
ホームページ : <http://www.tokiwakai.ac.jp/izumigaoka/>
メールアドレス : izumigaoka-youchien@siren.ocn.ne.jp

- ④理事長氏名 : おく 始

※理事11人、監事2人、評議員20人

- ・定例理事会 年11回開催(毎月開催、但し8月を除く)
- ・定例評議員会 年4回開催(5月・11月・2月・3月)

⑤ 全職員の配置

認定こども園
園長（1名）

教頭（1名）
主幹保育教諭（2名）
指導保育教諭（1名）
保育教諭（13名） 兼任保育教諭（25名）
専任看護師（1名）
専任職員（管理栄養士・事務）（2名）
兼任職員（事務・用務）（2名）
兼任職員（障がい児補助・預かり保育）（13名）

内科医（1名）
歯科医（1名）
耳鼻科医（1名）
学校薬剤師（1名）
学校産業医（1名）

調理担当
管理栄養士（1名）
栄養士（2名）
調理師（1名）
調理補助（6名）
【自園調理】

2. 事業報告（2019年度いずみがおか幼稚園）

教育目標 「温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う」

- ・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・心を動かし、やってみようとする子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

重点課題

- ① 子どもにかかわる時間帯が違う専任・兼任教職員が、どの時間帯であっても「子どもをまんなかに」「肯定的な子どもの受け止め」ができるよう、桃山学院教育大学より特別支援スーパーバイザーの松久先生を園内研修にお迎えし、兼任教職員も共に学べる機会を作った。また、預かり保育会議に常磐会短期大学の恒川教授に参加していただき、預かり保育時間内での子ども心理や受け止め方のアドバイスを受けたことで、気持ちに寄り添う保育の意識付けができた。
- ② 行事の内容や時間（参観時間）を再考し、「行事」の必要性や在り方の見直しを行ったことで、保育計画にゆとりがもてたり、遊び込む姿が見られたりし遊びに深まりが見られた。
- ③ 継続して布おむつ・布パンツの使用をして布の良さを伝えた。排泄の成功体験を積み重ねることで子どもが自信をもてたと共に、排泄自立に対して保護者の意識が高まった。
- ④ 3号認定子どもの「ポートフォリオ」では、子どもにかかわる兼任教職員も共に、1枚の写真から見えてくるもの、その前後の様子も踏まえ、詳しく伝えるコメントを書き込み保護者に手渡せたことで、より園理解につながった。
- ⑤ 3号認定こどものクラス懇談会の時間帯を午前に変更したことで、懇談後園庭で遊んだり、日頃顔を合わすことが少ない保護者同士が話されたりする交流の場となっていた。

研究テーマ

「続・子どもが主体的に活動できる保育環境を考える」

(1) 「幼保連携型認定こども園としての保育・教育」

- ①月案を見ながら週案会議を行い保育指導案につなげることの意識を高くもつようしてきた。新任

2名と共に保育教諭間で活発な振り返りや子どもの姿の情報共有を行ったことが、子どもの予想される活動、保育準備、教職員間の連携につながり、保育がゆとりあるものにつながってきた。

- ②2号、3号認定の子どもが増えている中、子どもをとりまく家庭環境、生活時間もさまざまであり、各家庭状況に応じた子どもの受入れを行ってきた。「子どもがまんなか」となる家庭での生活時間を保護者に意識してもらえよう個別に話をしてきた。

(2)「園児の生活の充実として」

- ① 昨年度に引き続き、コーナー保育の環境見直しを行った。1・2歳児もコーナーを充実させたことで、友だちとのかかわり、自分たちで遊びだすという姿が多く見られた。また、教材研究も行ったことで、子どもが意欲的に遊びにかかわり目標をもち遊ぶ姿が見られた。
- ②昨年度の ECEQ 公開保育の経験より、今年度もクラスの課題を明確にし、教職員間でいろいろな意見を出しながら、課題解決に向けて保育計画を立て保育を進めてきた。それぞれが保育を振り返り記録をまとめ、研誌「あしあとXXⅢ」を刊行。

園児数（認可定員 240 名）

2019年5月1日現在

歳児	認可定員	認可定員内訳		1号認定 実員	2号認定 実員	3号認定 実員	歳児別 実員合計	組数	実員合計
0歳児	60	11		/	/	58	5	1	223
1歳児		19					22	1・2歳児混合	
2歳児		30					31		
満3歳児	180	1号定員	2号定員	0	/	0	1	223	
3歳児		86	94	22		29	51		3
4歳児				23		38	61		3
5歳児				19		34	53		2
合計	240	240		64	101	58	223	13	223

園児確保のためのPR方法

- ① 堺市の認定こども園のホームページから本園にリンクするようにし、情報公開を行った。
- ② 2歳児親子登園（いちご組）に加え、いちご組フリー（保育室開放）を毎週火曜日に設けたことで、家庭で過ごしている未就園児の交流の場の提供につながった。園で過ごした経験が、入園後の子どもの気持ちの安定につながるようにした。
- ③ 地域交流として、地域敬老会、地域文化展、地域まつりにも参加した。

また、夕涼み広場・ふれあい動物村・CAP講習会・子育てフォーラム・ワークショップなどの行事を通して施設設備、保育内容を公開したことが園児募集につながった。

- ④ 様々な子育て支援を行ったことで園に親しみをもってもらい、本園への信頼を高めることができた。

0・1歳児親子登園、2歳児親子登園（いちご組・いちご組フリー）、一時預かり事業（一般型と幼稚園型）、子育て相談（キンダーカウンセラー事業）、親と子の育ちの場事業、乳児家庭全戸訪問事業、満3歳児入園、園庭開放など

入園の方法

- ・ 1号認定希望児は直接園へ利用申し込みを提出していただき、幼児観察と親子面接を行った。
- ・ 2号・3号認定希望児は、市に保育認定及び利用申し込みを申請していただき、市が利用調整を行った。

施設・設備の充実

①建物・施設

- ・ぐんぐん木登り（自然木遊具）を設置したことで、挑戦し身体を動かす遊びの選択肢が増えた。
- ・共有無線LAN設置により、各保育室でパソコンの使用が可能となった為、保育で映像を活用する機会が増えたと共に事務の効率化にもつながった。

②教育機器備品、その他の機器備品

- ・手描きこいのぼりが大きく勢いよく泳ぐ姿は子どもの興味を惹きつけ、登園への期待につながった。
- ・玄関アプローチ用テーブル、ベンチは保護者や子どもが集い、人がつながる場となった。
- ・折りたたみ座卓は、場面や生活、コーナー保育の内容に応じて取り入れることで、安心・安全・安定した子どもの活動につながった。

保育料

対象児	入園料	入園受入準備費	基本負担金	教材費	給食費
1号認定子ども	50,000円	3,000円	保育料無償	毎月2,000円	月3,200円
2号認定子ども					月4,900円
3号認定子ども	0円	0円	所得に応じる		0円 <small>基本負担金に含まれる。</small>

※基本負担金・教材費・給食費は8月も含む。

その他

- ① 子育て支援とし、親と子の育ちの場ふれあいランドの内容を検討計画、外部講師を招き実施したことで、親子で楽しめる時間が充実した。（ロディヨガ、太鼓、めりいさんと遊ぼう、音楽で遊ぼう等）また、昨年に引き続き地域支援で0・1歳児を対象とした「めばえルーム」を行った。
- ② 昨年度に引き続き、堺市発達巡回相談事業の実施、訪問支援事業の訪問支援員とのカンファレンス、また、支援や療育方法について共に検討し、的確なアドバイスを受け「個別指導計画」を作成した。また、地域及び行政機関、小学校と連携を深めた。
- ③ 三原台中学校区、中学校、小学校、こども園、幼稚園、保健センターの「みんなく」（眠育）についての取り組みが7年目となり、眠育絵本No.2、眠育紙芝居の企画・作成に取り掛かり始めた。
- ④ 堺市スタンダードカリキュラムワーキングチームに参加し、堺市独自のスタンダードカリキュラムの作成に携わった後、昨年に引き続き幼児教育堺スタンダードカリキュラムの普及・啓発のための研修会に参加し他園と保育の情報交換を行うことで自園の保育を見直す良い機会となった。